

有明工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	課題研究 I	
科目基礎情報							
科目番号	0020			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	創造工学科			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	前期:1		
教科書/教材	各講座において指定される						
担当教員	グランバイン リチャード,野口 欣照,鯨島 朋子,竹内 伯夫,酒井 健,村岡 良紀,村田 和穂,高松 竜二,清水 暁生,大河平 紀司,富永 伸明,原模 真也,柳原 聖,松野 哲也,森山 英明,下田 誠也,近藤 恵美						
到達目標							
1. 研究課題に取り組むことができる。 2. 研究課題に対する思考方法を身につけることができる。 3. 取り組みの成果をまとめることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	研究活動に主体的・積極的に取り組める。			研究活動に取り組める。		研究活動に取り組めない。	
評価項目2	教員の助言を受けながら、研究課題に関して思考することができる。			教員の指示に従いながら、研究課題に関して思考することができる。		研究課題に関して思考することができない。	
評価項目3	教員の助言を受けながら、取り組みに関する成果をまとめることができる。			教員の指示に従いながら、取り組みに関する成果をまとめることができる。		取り組みに関する成果をまとめることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 C-1							
教育方法等							
概要	2年生の全学生が、複数の担当教員が開設する各講座（研究テーマ）に分かれて研究活動を実践する。学生は所属する講座において、研究の進め方やまとめ方等の研究手法および態度を身に付ける。						
授業の進め方・方法	授業の進め方や内容等は各講座において決定する。ただしどの講座においても毎回指定された書式を用いて各自で授業の記録を取る。成績は授業の参加状況や取り組み状況、提出する報告書および成果物等を考慮し、各講座において総合的に評価して合否で判定する。						
注意点	自主的に調査、研究、実験、製作等に取り組むという積極的な姿勢を持つこと。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーションおよび各講座紹介			所属する講座を決定する	
		2週	各講座オリエンテーションおよび研究 1 回目			各講座において決定する	
		3週	研究 2 回目			各講座において決定する	
		4週	研究 3 回目			各講座において決定する	
		5週	研究 4 回目			各講座において決定する	
		6週	研究 5 回目			各講座において決定する	
		7週	研究 6 回目			各講座において決定する	
		8週	研究 7 回目			各講座において決定する	
	2ndQ	9週	研究 8 回目			各講座において決定する	
		10週	研究 9 回目			各講座において決定する	
		11週	研究 1 0 回目			各講座において決定する	
		12週	研究 1 1 回目			各講座において決定する	
		13週	研究 1 2 回目			各講座において決定する	
		14週	活動のまとめの準備			各講座において決定する	
		15週	活動のまとめ			各講座において決定する	
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2		
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2		
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	2		
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	2		
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2		
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2		
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	2		
				複数の情報を整理・構造化できる。	2		

				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	2	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	2	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	2	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	2	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	2	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	2	
				目標の実現に向けて計画ができる。	2	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	100	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0